

として記念本を作りました。内容は、僕が訪問診療をしている経験から作った短編小説、管理栄養士の江頭さんとの対談、そして！この「ごとう通信」の過去十数年分の中からトピックをピックアップしたものです。テレビのようなメディアとは異なり、ラジオ番組なので僕の顔を知らない人も多くいるということで、表紙は僕のドアップです！これがなかなか恥ずかしい。



元々はリスナーさん向けに作った本ですが、診療室でも販売します。金額は100円以上。東北支援ないしはエチオピア支援の募金箱に入れていただけ

れば結構です。ご興味ありましたらお手に取ってみてください。

義歯に慣れる

大学を卒業したのち、僕は入れ歯の専門講座に残っていました。歯科の中で義歯の専門家という立場になるのですが、いまだに分からないことや新たな発見もあります。もちろん、痛みや傷ができた方へはいろいろ苦慮しながらも対応できるのですが、義歯に慣れない方への対応法は基本的にありません。

最初からあまり抵抗なく義歯を入れておける方はいいのですが、そうでない方への対応は大きく分けて二つです。一つは、少しずつ入れていただく時間を長くしていく方法、もう

一つは、とにかく外さない。

ほとんどのケースは少しずつ入れる時間を長くしていただくのですが、先日、訪問で伺った認知症の方で、あまりにも抵抗が強かったので、僕が装着した後、ご家族にも触らないようお願いをしました。すると、次に伺ったときは自然に義歯を入れられるようになっており、いったん外そうとすると強く抵抗されてしまいました。

このことを考えると、最初のうちはとにかく我慢してもらってでも入れておいていただいた方が良くもしれないなあと思うようになりました。もちろん、傷がつかないように義歯を作ることが大前提ですから僕の責任も重くなってしまうけどね。